

励ましについての日中対照研究（第2部 発話機能論から配慮表現研究への応用と対照研究）

著者	李 奇楠
雑誌名	日本語コミュニケーション研究論集
号	2
ページ	79-89
発行年	2012-11-30
URL	http://hdl.handle.net/2241/00145256

励ましについての日中対照研究

李 奇楠（北京大学）

要 旨

本稿は先行研究を踏まえたうえで、励ましという発話機能に関する発話の目的や語用論的前提など語用論的条件を確認しながら明晰にした。そのような語用論条件にもとづいて、励ましの遂行文、励ましの規約的間接発話行為文および非規約的間接発話行為文、談話レベルの励ましについて、具体的用例を挙げながら、日中対照の立場から、日本語、中国語のそれぞれの形態特徴を語彙・構文・ディスコースの視点から考察・分析した。意味機能が同じで、日中の対応している語彙や構文もあるが、言語類型論における根本的違いは、同じく励ましとしての日中双方の言語学的性質にも余波を及ぼしていると言わざるをえない。孤立語の性質が日立っている中国語は日本語のような「がんばれ」「がんばって」「がんばりなさい」「がんばってください」など比較的発達した形態特徴を持つシリーズ版のような励まし表現は見られなかった。

キーワード：励まし、日中対照、発話機能、構文、談話

1. はじめに

ことばの力は強い。このことは、論を待たない。ある発話で、笑ったり悩んだり涙を流したりすることもできる。たとえば、励まされ、挫折に立ち向かう勇気を得て、勝利を勝ち取る例もよくある。我々は今までだれかを励まし、あるいはだれかに励まされたことがあるであろう。とくに教師のばあい、ときどき学生さんのことを励ます必要があり、また親として、子供を励ますこともたびたびではないだろうか。時にはその逆のほうもあるが、我々人間は何か困難に直面するばあい、互いに助け合うべきだと思われる。そのとき、さまざまな行動をとることになる。「励まし」という発話行為もその中の重要な行動の一つである。本稿は語用論の立場から、励ましの発話特徴に関する日中対照を試みる。対照を通じて、相互の形態・構文・応用などについての認識を深め、中国語との対照を通して、日本語の励ましの本質をよりよく理解でき、日本語研究、日本語教育のためにも有益な考察を提供できればと思う。

2. 励ましの先行研究について

オースティン、サールの発話行為に関する理論研究成果を受け継ぎ、さらに発展させた Daniel Vanderveken (1990) では、英語の行為指示の発話行為(命名)動詞の中には、encourage (励ます)があると明確に提出した。Daniel Vanderveken (1990 久保進監訳 1997: 197) にはつぎのような論述がある。

行為指示動詞としての意義においては、“encourage (励ます)” という動詞が命名する発話行為は、聞き手に勇気を吹き込むという発話媒介的意図で [遂行される行為であるという達成の様式を持ち、] その人に何かをするように “request (要請する)” こと

である。そして同時に、主張されているその一連の行動が勇気を要求し、このような必要とされる勇気を話し手が何とか〔聞き手に〕出させたり吹き込んだりしなければならぬということをも前提としている〔という予備条件を持つ〕。従って、両方の動詞は、“request（要請する）”よりは強さの度合いが強いが、“command（指令する）”が持つ権威や、“beg（願う）”が持つ謙遜の気持ちは欠落している。そのかわり、聞き手の側における明らかな無気力さと話し手の側に要求される動機づけとに関連する予備条件が存在する。

上述から分かるように、励ましは聞き手に勇気を出させ、何かを実行させるような発話行為である。依頼や命令とは違いがあるが、指令行為の一種類だと言える。

機能の立場から日本語の発話を開拓的に研究してきた山岡（2008）、山岡・牧原・小野（2010）には、《激励》に関する論述がある。おそらく各発話機能の命名の統一を図るため、和語の「励まし」ではなく、二字漢語の「激励」という用語を使用したと思われる。その中では、次のような激励の具体的用例を挙げている。

(1) ⁽¹⁾（病気の見舞いとして）早くよくなってください。

(2) いつか、師匠を追い越せるよう、がんばってください。

山岡（2008：116）

(3) 合格できるよう祈ってるから頑張ってください。

山岡・牧原・小野（2010：134）

(4) 近くに来たからついでによってみたけど、なんだ元気そうじゃない。

山岡・牧原・小野（2010：179）

上の4例は(4)を除き、いずれも励ましの典型的な使用例だろう。日本語の励ましの代表例とも言える。Daniel Vanderveken（1990）の「行為指示」の範疇分類とは違い、山岡（2008）、山岡・牧原・小野（2010）の考察によると、励ましは〔表出〕のカテゴリーに入るのである。聞き手を元気付けたり、やる気を引き出したりする目的の発話として、聞き手にそれ相応の努力や行動をやらせることを中心に考えると、話し手自身の気持ちだけの〔表出〕に止まるのではなく、〔策動〕範疇に分類したほうが妥当だと思う。

本論は指令行為としての励ましを、上記の先行研究を踏まえ、日中対照の角度から詳しく検討していく。

3. 励ましの構文パターン

励ましの発話目的に関しては、次のことが言える。つまり、行為指示用法のひとつとして、話し手（あるいは書き手）が、世界において、これから先のある行動（あるいは一連の行動）を聞き手（あるいは読み手）に実行させようと試みるという発話目的を持っている。簡単に言えば、聞き手（あるいは読み手）にある行為をさせることである。サールの提案したことばと世界との関係については、いわゆる世界をことばに適合することになる。ただこの2点はすべての行為指示用法、たとえば命令、依頼などについても適用する。異なるのは、励ましのばあい、これから先の行動はじっさい、聞き手にとって望ましいことであるが、それを実施するには勇気が必要である。2節で引用されたヴァンダーヴェーケ

ンの論述にも書いてあるように、「聞き手側における明らかな無気力さ」が励まし行為の前提となっている。しかも他の行為指示用法と区別できる重要な語用論的前提である。

以下用例を挙げながら、励ましの用法に関する具体的考察を展開させる。

3.1. 励ましの遂行文

中国語にも日本語にも直接、動詞を使う励ましの遂行文がある。中国語のばあい、“鼓励 (gu li)” という遂行動詞が使われ、日本語のばあい、和語の「励ます」と漢語の「激励する」の遂行動詞を二つ有する。

たとえば、中国語のばあい、次のような言い方がある。

(5) 我鼓励你!

(6) 我鼓励你这么做!

(5) にあるセンテンス“我鼓励你!” の文法構造は次のようになっている。つまり、「第一人称代名詞“我(私)” + 動詞“鼓励(励ます/激励する) + 第二人称代名詞“你(あなた)”」。日本語に直訳すれば、「私はあなたを励ます」となる。

また、(6) の“我鼓励你这么做!” のような言い方は日常生活でよく用いられる。上記の文法構造と比べて、最後の“这么做(このようにやる)” という指示限定表現が追加されている。この発話の意味は「私は、あなたがこのようにやるのを励ます」になる。これで、中国語では、遂行動詞“鼓励” が明示的に使用される遂行文が存在することが分かる。構文特徴としては、「第一人称代名詞“我(私)” + 遂行動詞“鼓励(励ます)” ～～」となっている。

なお、単数だけではなく、第一人称代名詞の複数用法も見られる。下記の用例(7)である。

(7) 我们鼓励革命文艺家积极地亲近工农兵，给他们以到群众中去的完全自由，给他们以创作真正革命文艺的完全自由。

(われわれは革命的な文学者・芸術家が積極的に労働者、農民、兵士にちかづくよう激励し、かれらに大衆のなかへはいる完全な自由をあたえ、かれらに真の革命的な文学・芸術を創造する完全な自由をあたえている。)

毛泽东选集第三卷 (原文) 毛沢東選集三 (訳文)

例(7)では「我们鼓励～～」の「一人称複数“我们(われわれ)” + 動詞“鼓励(励ます)”」構文が使われている。励ます主体は話し手(ここでは書き手)側の人間を指す。励まされる方は“革命文艺家(革命的な文学者・芸術家)”である。励ますことは“革命文艺家积极地亲近工农兵(革命的な文学者・芸術家が積極的に労働者、農民、兵士にちかづく)”である。日本語の訳文は「われわれは～～よう激励する」となっている。

日本語では、励ましの動詞「励ます/激励する」は「～～たいと思う」の一人称思考文型と組み合わせて、「～～励ましたいと思います」「～～激励したいと思います」の用法もある。激励の対象に向かって、たとえば、「私は～～さんを励ましたいと思います」「我々は～～さんを激励したいと思います。」と発話されるばあい、いずれも準遂行構文パターンに入ってもよいであろう。中国語も同じことが言える。

上記(5) (6) (7) の“我鼓励～～(私は～～励ます)” “我们鼓励～～(われわれは

～～激励する)”)のような使い方は直接励まし行為の中で最も明示的用法である。依頼発話行為の「頼む(拜托)」や感謝発話行為の「感謝します(我感谢)」や謝罪発話行為の「お詫びします(我道歉)」のような遂行文と同じ用法だと言える。

3.2. 励ましの規約的間接発話行為文

3.1のような励ましの遂行文は励ましの直接発話行為である。それ以外の励ましの発話は、動詞「励ます」が使われていないので、サールの発話行為論によれば、厳密的には直接的発話行為ではなく、間接発話行為になる。ただ、励ましたとすぐ反応できるばあい、規約的発話行為であり、それなりの構文的、形態的特徴も備わっている。本節ではそのような用法について考察し、分析してみる。

3.2.1. 動詞の命令形と励まし

「がんばれ」は動詞「がんばる」の命令形である。「がんばる」の語源については「我(が)に張る」または「眼(がん)張る」の転だと辞書に書いてあり、よく使う漢字表記の「頑張る」は当て字だと説明されているが、現代日本語としては、一つの使用頻度の高い動詞の役割を果たしている。語彙的意味としては、「あることを成しとげようと、困難に耐えて努力する」や「途中の困難にめげず、最後までやり通す」などのような内容に定着して使われている。

「がんばる」にはそのような語彙的意味があるから、この動詞の命令形の「がんばれ」は人を励ますことばとして最も頻繁的に、日本語の日常生活に現れたであろう。話し手(書き手)より聞き手(読み手)への「困難にめげず、最後まで努力して」との勇気を送る発話行為として成り立つのである。

聞き手にとって、やるべきこと、あるいはやったほうがよいことであり、そのようなことをやったら、あるいはそのような行動を取ってから、何かよい結果をもたらす。が、その良き結果をもたらす行為の成し遂げには困難が伴われ、聞き手(読み手)にはそれをやる勇気が足りないとき、話し手(書き手)のほうから「励ます」の発話をかける。この発話の目的、語用論的前提に、語彙的意味がぴったり合うのが「頑張れ」だと言えるであろう。

中国語では、この「がんばれ！」に対応することばは「加油！」となっている。文字通り、自動車や航空機などに燃料を補給することや、機械の摩擦部分に潤滑油を注入することを表わす「給油(する)」の基本的意味もあるが、「小王、加油！」などのような例では「王くん、がんばれ！」の意味を表す。ただ、中国語のばあい、日本語の動詞のような活用変化をしないので、元の動詞の形がそのまま使われ、同一形態の特徴を持っている。発話のばあい、発音が変わらないし、書きことばのばあい、表記もいっしょである。その意味で、日本語の「がんばるーがんばれ」のような異なる発音・表記、いわゆる活用変化がないので、この点に限って、中国語のほうはシンプルで、簡単で、使いやすいであろう。

「がんばれ!」「しっかりしろ!」のような語彙自体の意味は汎用性が高く、激励の発話としてよく用いられるが、その他の動詞の命令形も励ましの語用論的条件を満たすばあい、いずれも激励の機能を果たすことになる。たとえば、動作行為を表す「走れ」⁽²⁾、「行け」、「言え」などのような動詞命令形。どれも一定の語用論条件のもとで、励まし

の発話行為になる。

さらに具体的に説明すると、同じ動詞の命令形として、「がんばれ！」などは明らかな励まし用法であるが、「結婚しろ」のような動詞命令形はコンテキスト次第になる。たとえば次のような二つの用例。

(8) 妹が結婚したとき、正直嫉妬を感じたよ。

でも、妹が選んだ相手なら仕方ないと思った。両親が反対しても、僕は妹の味方をした。妹を励まして、「愛しているなら、結婚しろ。後悔するな」って。

<http://novel18.syosetu.com/n09211/>

(9) いい男と結婚しろよと言っというて我を娶らぬヤツの口づけ

(“和更好的男人结婚吧!” 你这样说道，不娶我却和我接吻拥抱。)

サラダ記念日 (原文) 沙拉纪念日 (訳文)

最初の(8)の「結婚しろ」は兄より妹のことを励ますことばだが、その次の(9)のほうはそうではないようである。(8)のばあい、妹の結婚は両親に反対されて、結婚することが困難な状況にあったので、励ましの語用論的条件を充たしている。(9)のほうはその表現だけでは文脈が分からないが、励ましではなく、助言の発話機能だと見るのが妥当であろう。もし、「いい男」はある特定人物を指し、女性のほうはそちらと結婚するかどうか迷っているばあい、話し手の男性はその「いい男」と結婚したほうが女性にとって幸せだと思えばあい、(9)の「結婚しろ」は励ましの機能になる可能性がある。この意味機能的考察の結論は中国語のほうにも通用する。

3. 2. 2. 動詞の他の活用形式と励まし

動詞命令形以外に、動詞のて形や「動詞+なさい(てください)」や「動詞のる形+終助詞な」の禁止形なども、上述の励ましに関する発話の目的・語用論的前提が揃うなら、励ましの機能を果たす発話として使われることになる。たとえば、「がんばって!」「がんばりなさい」「がんばってください」「あきらめるな!」などのような言い方。

(10) 気がついたときには、梁か何か太い木材の間に挟まって、自分の父親がその木材を取除けようとしているところであった。父親は「しっかりせえ」と励ましなが

ら、少年の足を挟んでいる木材を持ちあげようと丸太を梃子に使っていた。
(当醒过来时，他夹在大梁和另外的粗木材之间，父亲正在把那些木材搬开。“坚持住!”父亲一边鼓励，一边用圆木头当杠子，把夹住少年脚的木材搬开。)

黒い雨 (原文) 黒雨 (訳文)

(10)における「しっかりせえ」は広島の方言「しっかりしなさい」の意味である⁽³⁾。それに対応する中国語の“坚持住!”は動詞“坚持”と結果補語のような役割を果たす“(V+)住”との組み合わせである。ただ、日本語の「しっかりしなさい」に対応する中国語の表現は具体的場面や意味によって異なる言い方になる。

(11) 大姐常常殷勤的查问我的功课，又索读我的作品。她对我的作品，总是十分欣赏，鼓励我要多读多写。

(姉さんは勉強のすすみぐあいを尋ね、私の作品を読みたいといった。読めば必ずほめてくれて、どんどん読んでどんどん書きなさいと激励した。)

关于女人 (原文) 女の人について (訳文)

(11) における日本語の表現に注目してもらいたい。「どんどん読んでどんどん書きなさいと激励した」における「～なさい」の用法が使われている。この文脈（文脈は抽象的なことばであるが、ここではその励ましに関する語用論条件を指すつもりである）では、励ましの発話としての形態的特徴となっている。中国語の発話のほうは、いわゆる“要(+V)”構文を使っている。

(12) 先週の金曜日と土曜日に飲みに行った二人の友人（二人とも社長）も「絶対お前なら大丈夫だし、絶対に諦めるな」と言う励ましを頂きました。その上に二人とも「俺で出来る事は手伝うから」とも言って頂きました。ありがたい事です。

（上周星期五和星期六一起去喝酒的两位朋友（二位都是总经理）也鼓励我说：“你绝对没问题！千万别放弃！”而且他们二人还都对我说：“有我能做的一定会帮忙”。真是太难得了。）⁽⁴⁾

(12) では「諦めるな」の「動詞の形+終助詞な」の動詞の禁止形が励ましのことばとして使用されている。中国語のばあいも、同じく“別～”あるいは“不要～”のような禁止構文を使い、励ましの表現となっている。動詞そのものの意味（ここでは、たとえばこの(12)に使われた「あきらめる」以外に、「逃げる」「負ける」などのようなマイナスの意味の動詞はわりと典型性を持つ）や語用論的条件が整えれば、励ましの機能が発生するわけである。

3.2.3. 構文「～ましようね」と励まし

動詞+「ましようね」も励ましの形態特徴として一定の規律性があるので、取り上げて考えてみる。

(13) きょうよりもあす、あすよりもあさつと、子どもの生活に少しでも進歩があったら、手を取って、目をみて、ほめて、いっしょに喜びます。失敗しても、この次にはうまくやりましようねと励ましてやると、子どもは意欲的になります。

（明天要比今天做得好，后天要比明天做得更好。对于孩子生活上所取得的每一微小进步，都应该握住他的手，看着他的眼睛，加以表扬，为他高兴。即使做得不对，只要能鼓励他下次做好，孩子是会产生积极性的。）

ひとりっ子の上手な育て方（原文） 独生子女优育法（訳文）

(13) にある「この次にはうまくやりましようね」は失敗した子供に向かって使われた発話である。「V よう」の丁寧な形となっていて、確認の終助詞「ね」とともに使われ、子供の次回の行動が失敗しないように励ましている。

(14) “你还很年轻哟！”秦波又鼓励她说：“听说你还没有入党，是不是啊？要努力争取嘛，我的同志哟！”“我家庭出身不好。”陆文婷老实地答道。

（「あなたはまだお若い！」秦波はなおも彼女を励ますかのように言った。「党にはまだ入っていないようですわね。そうでしょう？努力ましようね、同志！」「私、いい身分ではありませんので——」）

人到中年（原文） 北京の女医（訳文）

(14) の日本語の表現にも「努力ましようね」の「～ましようね」の構文が使われ、励ましの発話として使われている。日本語の「～ましようね」と違って、中国語の方はそれほど文法化的励ましのマーカーがないので、動詞の意味や文脈によって違う表現を使うケ

ースバイケースの性質を持っている。

3.3. 励ましの非規約的間接発話行為文

3.2 では、励ましの間接的発話であるが、比較的によく使われていて、一種の規約的励まし用法になっているいわゆる励ましの規約的間接発話行為文について考察し、その発話の形態特徴をまとめた。たとえば、「がんばれ」「がんばって」「がんばりなさい」「がんばってください」「あきらめるな」「がんばりましょう(ね)」などのようなものである。動詞の命令形や動詞のて形、「動詞+なさい」「動詞+てください」「動詞+な」「～ましょうね」のような動詞の一定の活用形や構文的特徴を持っていて、動詞そのものの意味、語用条件も揃えば、つまりある一定の文脈においては、励ましの機能をつねに発揮することになるので、「～励ます」「～激励します」のような一人称(複数)動作主体の遂行文の直接励ましの発話と違って、励ましの規約的間接発話行為文と認めることができる。

さらに用例を観察すると、励ましの遂行文でもなく、動詞の命令形「がんばれ」や動詞て形「がんばって」のような規律的明示的形態特徴はないが、励ましの作用をする発話もある。そのような発話は文脈依存性がさらに強く、語彙特徴や文法特徴が捉えられないため、非規約的間接発話行為文の励ましのカテゴリーに入ると思う。

次の(15)例は話し手自身のこれからの行動について相手に告知することを通して、励ましの発話行為を間接に実施している。

(15) その代わりに、店は信用を失い、まして「これからも買ってやるよ」などという励ましは絶対にもらえなかったであろう。

(但是, 这样一来商店便批发信用丢失了, 何况顾客的诸如“以后还到你这里买”的一类鼓励更是绝对听不到了吧。)

心の危機管理術 (原文) 顺应自然的生存哲学 (訳文)

この(15)の例文においては、日本語の授受表現「～てやる」構文が使われるため、「買う」の行為主体が話し手自身、その「買う」行為を受ける(あるいはその行為の恩恵を被る)のは聞き手であることが分かる。ここでは、お客さんと店の主人との会話なので、お客さんよりの今後引き続き店のものを買うことの告白自体は、店側にとって一種の良き評価でもあり、店の経営者にとっては励ましにもなるのである。

非規約的間接発話行為文なので、中国語のこの類の励ましも日本語のこのような励ましも形態特徴の規律はとくに見つからず、唯一言えるのはともに将来のことに関する話し手の意思を相手(励まされる側)に告知することのような内容であろう。

4. 談話レベルの励まし

3. では主に文レベルの視点から励ましの発話の特徴について、考察・分析したが、実際の日常生活では、励ましは必ずしも、一つの文からなっているわけではない。ここでは、談話レベルの立場から励ましに関する考察を行ってみる。

(16) 「子どもの教育については、お前にまかせた。おれは忙しくて、それどころではない」などとお父さんがまったく教育に参加せずに、ほったらかしの家庭と、子どもがよい成績をとったり、少しでも進歩したりすると喜び、ちょっと停滞

していると励まし「そうか、どれどれ、ほう、この前よりテストの点がよくなったか。よかったね。お父さんも嬉しいよ」

(有些家庭的父亲，一点也不参与对孩子的教育，对家庭采取放手不管的态度，说什么：“我忙，顾不上，孩子的教育就全靠你这个当妈的啦！”也有的家庭，父亲关心孩子教育，协助母亲同孩子接触，当孩子取得较好成绩或稍有进步，同孩子一起高兴，当孩子学习成绩踏步不前时，能够热情鼓励孩子：“哦，让爸爸看看。啊，考试成绩比上次好多了。很好！爸爸也替你高兴啊！”)

ひとりっ子の上手な育て方 (原文) 独生子女优育法 (訳文)

(16) では「そうか、どれどれ、ほう、この前よりテストの点がよくなったか。よかったね。お父さんも嬉しいよ」という発話全体を励ましとしている。最初には疑問文「そうか」があり、そのあとには二つの感動詞「どれどれ」、「ほう」が続き、また「この前よりテストの点がよくなったか。」の比較構文の疑問形式が現れ、さらに「よかったね」の形容詞評価文が用いられ、最後に「お父さんも嬉しいよ」の表出文で締めくくっている。その中でのプラス評価である「よかったね」はこの励ましの談話を構成する中心的役割を果たす部分だと言えるであろう。そのつぎは確認意味の「この前よりテストの点がよくなったか。」および話し手の感情表出文「お父さんも嬉しいよ」が重要な作用を発揮している。もちろん「そうか」や感嘆の「どれどれ」「ほう」は一つのまとまりがある自然な励ましの構築にも役立っている。そのいくつかの部分からなる組み合わせはいわゆる談話レベルの励ましに達していると言えるであろう。このような日本語らしい励ましに関する教育は外国人日本語学習者を対象にしている日本語教育の現場に応用できれば、日本語が非母語話者の自然な日本語の習得に貢献できると思う。

中国語にも同じように談話レベルの励ましが存在している。

(17) 有一天他便把这想法，同韩叔叔说了。韩一潭鼓励他说：“你想得这么深入，何不自己动手来写呢？现在象你这样的青年作家很多，你也二十出头了吧？既然遇上了这么清明的政治气候，你应当抓紧机会，立一番事业。现在成名成家不但不是罪恶，还受到鼓励。你看咱们院的年轻人，除了薛纪跃可能受家里条件限制，发展不大以外，荀磊和他那对象小冯，都奔着翻译家的目标去呢；张秀藻过几年准是个博士，最后一定当总工程师……就是人到中年的澹台智珠和詹丽颖，一个奔着表演艺术的目标而去，一个起码也要争取评上个高级工程师，谁也不甘落寞……西宾呀，不要再‘哪里哪里’啦，早一点确立好你的志向吧！” 钟鼓楼 (原文) 鐘鼓楼 (訳文)

(17) にある話し手韓おじさんの励ましのことばは一つの文ではなく、いくつかの文からなっている。どの文も励ましの機能を果たすと同時に、全体的にはその励ます効果を高め、強めていると言えるであろう。

5. おわりに

今回の考察は、励ましに関するそのことば的側面、いわゆる形態特徴を中心に考えている。日本語の遂行動詞「励ます(激励する)」と中国語の遂行動詞“鼓励”との対応から始まり、動詞の命令形(たとえば次の(18)にある「自分の可能性を信じろ」)や動詞の

て形や「動詞+なさい」、「動詞+てください」「動詞+禁止の終助詞な」乃至構文「～～ましょうね」など励ましとしての間接発話行為文についての日中対照を試みた。語彙・構文レベルだけではなく、談話レベルの考察も試みた。間接であればあるほど、日中双方とも、励ましの機能と対応する語彙・文法的特徴が捉えにくくなる。これは励ましの発話機能の文脈依存性の高さを物語っている。下記(18)にある文字通りの可能の意味を表す「お前ならやれる」も否定文の「体の小ささなんて関係ない」もこの文脈で励ましになっている。このような例は日本語にも、中国語にも至るところにあるようである。更なる考察が必要であり、今後の研究課題として、探索を深めたい。

(18) ★180cmを超える体躯が居並ぶ野球界の中で、171cmの小柄な体格はコンプレックスだったのでは？

・・・コンプレックスでした。それ以上にプロを目指せるような結果もないまま高校時代を過ごしていましたから、もうプロを意識するような状況ではありませんでした。ただ、高校時代の恩師が、「体の小ささなんて関係ない。体の使い方次第だ」「お前ならやれる」「自分の可能性を信じろ!」と励まし続けてくれました。お陰で、自分の体格を含めた現状に振り回されるのではなく、強くなるために今何をすべきか、成長するために今何ができるのかを考えるようになりました。また常に目標を掲げるように心がけました。

<http://www.soka.ac.jp/campuslife/voice/v110.html>

今回励ましの用例を集め、関連の考察を行ったことを通して、とくに感じたのは、指令行為としての励ましは聞き手に働きかけ的作用があるため、直接の励ましより、日本語のばあい、むしろ間接的励ましのほうをとる傾向が好まれる。感謝や謝罪など他の表出行為はふつう、とことんまで、徹底的に遂行すればするほど、話し手の誠意を感じられるが、励ましは直接すればするほど、相手にプレッシャーをかけることにもなるため、その点を配慮して、控えめの励まし、中途半端の励まし、乃至すごく婉曲的、むしろ相手に何かをさせないような発話（反語？でもない）になってしまうばあいもある。もちろん、それは話し手と聞き手、いわゆる励ます側と励まされる側との関係や、聞き手の直面している困難の具体的状況・程度などに左右される。

今回は主に、励まし全体に関するマクロ的考察が行われたが、ミクロ的考察、更なる緻密的分析を今後の課題としたい。励ましの配慮についても、今後の課題とする。

いま、考えているのは、励ましをあまり配慮すると、励ましでなくなる。「中途半端の激励」もある。配慮の要らないストレートの励ましもあれば、配慮の度合いによって、配慮表現を伴う励まし、意味に頼るしかない間接的励まし、つまり形態・統語的特徴で判断できない励まし（他の発話行為に見えている、完全に文脈や背景などによる推測しかできない励まし）などさまざまある。他の発話機能もそうであるように、～～行為→非～～行為のような連続的システムを構成していて、各発話行為の交差によって、人間のすべての発話のネットワークやシステムが織り成され、構築されていくと想像できる。

最後に、長年の日本の友人よりいただいた今年の年賀状に書いてあることばをご紹介します。「奇楠も、ストレスを抜きながら、テキトウに頑張ってください！（笑）」とても暖

かいメッセージであり、同時に前に進む勇気を与えてくれた大事な励ましである。

注

- (1) 用例番号は引用例のものではなく、本稿の説明便宜のため、全文統一の番号をつけることになっている。
- (2) 太宰治の『走れメロス』をすぐ思いつく方がいるかもしれないが。
- (3) この「しっかりせい」についての用法を、山岡政紀先生にお伺いした後、次のようなコメントをいただいた。「「しっかりせえ」は「しっかりしなさい」で間違いない。広島だけでなく関西から中国四国まで広範囲で用いられている。自分も京都ではそう言っていた。例えば、授業中に「静かにせえ」という。「静かにしろ」とは京都では言ったことがなかった。小学校のとき、ある登山会で富士山に行ったら宿泊先で東京の子どもが「静かにしろ」と言ったので、こんなテレビドラマのしゃべり方を本当にするやつがおるんやなど新鮮に感じた記憶がある。」
- (4) この(12)の例文は下記のYahooブログからの引用である。
<http://blogs.yahoo.co.jp/ookamisyounen28gou/38756859.html>
ちなみにその中国語訳は筆者によるものである。

参考文献

- 池上嘉彦 (1978) 『意味の世界 現代言語学から視る』 日本放送出版協会
- 奥津敬一郎・徐昌華 (1982) 「～テモラウとそれに対応する中国語表現」『日本語教育』46号
- 尾上圭介 (2010) 『大阪ことば学』 岩波書店
- 小野正樹 (2005) 『日本語態度動詞文の情報構造』 ひつじ書房
- 泉子・K・メイナード (1997) 『談話分析の可能性』 くろしお出版
- 野林正路 (1997) 『語彙の網目と世界像の構成—構成意味論の方法』 岩田書院
- 橋内武 (1999) 『ディスコース』 くろしお出版
- 徐昌華・李奇楠 (2001) 《現代日語間接言語行為詳解》 北京大学出版社
- 孫宗光・李奇楠 (1992) 《日中同義詞比較》《日本文化教育研究文集》 辽宁教育出版社 pp. 169-174
- 山岡政紀 (2000) 『日本語の述語と文機能』 くろしお出版
- (2008) 『発話機能論』 くろしお出版
- 山岡政紀・牧原功・小野正樹 (2010) 『コミュニケーションと配慮表現』 明治書院
- 山岡政紀・李奇楠 (2004) 「依頼表現の日中対照研究」《日本語言文化研究》第五輯 学苑出版社 pp. 131-160
- 李奇楠 (1998) 《日語形容詞“いい”的語用功能分析》《日語学习与研究》第3期
- (1998) 《日語中的規約性間接言語行為与非規約性間接言語行為》《北京大學學報(外國語言文學專刊)》
- (2001) 「日本語と中国語の形容詞述語文について—語用論的立場からの一考察—」『研究誌 ことば』22号、現代日本語研究会
- (2003) 《形容詞謂語句的“会话含义”》《日語研究》第1輯 商務印書館 pp. 130-144

—— (2004) 「依頼に対する応答の諸相」『研究誌 ことば』現代日本語研究会 25 号
pp. 38-49

—— (2011) 「禁止表現の日中対照」『日本語コミュニケーション研究論集』第 1 号
pp. 103-112

Austin, J.L. (1962) *How to Do Things with Words*: Oxford University Press, Oxford.

Daniel Vanderveken (1990) *Meaning and Speech Acts*, Cambridge University Press. (邦訳: 久保進監訳 (1997) 『意味と発話行為』ひつじ書房)

Searle, J.R. (1979) *Expression and Meaning: Studies in the Theory of Speech act*: Cambridge University Press, Cambridge.

用例出典

『中日対訳コーパス』(2003) 北京日本学研究中心

(李奇楠、北京大学外国語学院准教授、liqinan@pku.edu.cn)